

宜野湾市立 宜野湾小学校

基本情報

宜野湾小学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

PTA会長、自治会長、登下校見守り
団体代表、校長、PTA元役員
など 10名

会議回数 年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(0名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

宜野湾市地域学校協働本部

背景・取組概要

地域で子どもたちを育てるために、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し、地域と一体となって子ども達を育む「地域とともにある学校づくり」とともに、「学校を核とした地域づくり」に向けて、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを推進する。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

PTA会長や自治会長、学校を支えてくれている地域団体代表者などを学校・家庭・地域の関係者を協議会員として委嘱し、学校運営協議会を年3回開催している。協議会では、学校関係者評価の改善などについて、協議している。



◆地域学校協働活動

地域コーディネーターが、地域の様々な教育資源を学校につなげ、学校と地域の連携推進に努めている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会に地域コーディネーターも参加し、学校と地域の連携について、意見交換・情報共有を図っている。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

○地域の方々が、これまでより学校に足を運ぶようになり、学校・地域の繋がりが強化された。
○評価項目をわかりやすく改善したことで、課題について共通確認し、対応策を学校運営協議会で協議することができた。

☆学校運営協議会の取組により、地域行事への参加は増えてはいるが、今後も自治会、地域住民、保護者との連携を強化し、行事等の情報共有を行うことで、更なる参加促進に努める。

☆学校運営協議会において、災害時の避難行動や地域住民を含めた避難場所・避難経路について、確認・協議を行うとともに自治会と連携しながら、地域の防災行動のあり方についても継続的に審議を行っていきたい。

石垣市立 宮良小学校

基本情報

宮良小学校学校運営協議会

令和6年6月13日 設置

委員構成

公民館長、老人会長、婦人会長、青年会長、PTA会長、保育園長、民生委員、学校運営アドバイザー(学識経験者)教育委員会職員など。10名

会議回数

年1回以上

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

石垣市地域学校協働本部

背景・取組概要

地域と共に歩む学校作りを目指して、地域の自然、文化、歴史を地域の方と学習する必要がある。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆豊かな体験活動(川下り、稲作体験、黒糖作り)が展開
- ◆学校行事(学習発表会における伝統芸能指導)
- ◆環境整備作業への協力
- ◆学校の周年行事実行委員を兼ね、構成員の人選をはじめ、中心的存在になり準備を行った。
- ◆登下校時の見守り
子ども達が多様な体験を通して地域への興味関心を高めることが出来た。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

- 特色ある学校行事が安定して展開できた。
- 学校の周年行事の準備委員会の人選を学校運営協議会が中心となり行った。
- ☆スムーズな世代交代に向けた、さらなる地域人材、専門人材の発掘。



浦添市立 港川小学校

基本情報

港川小学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

校長、地域学校協働活動推進員、
地域住民、保護者・PTA関係者、
自治会長、企業役員

など 11名

会議回数 年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

ハーバーネット

背景・取組概要

◆「なりたい自分」「グローバルな人材育成」をキーワードに探究心を大切にしながら、教科横断的な視点で、児童が主体的に学ぶ「魅力ある学校づくり」に取り組んでいる。その核となる取組が「海の生き物観察会」「ゴミ減量作戦」である。取組のきっかけは、校区の自然環境に興味をもって欲しい、主体的な学び・体験的な学習を実践し、自己肯定感、自己有用感を高めたい思いからであった。実際に計画していくと、学校だけでは難しく、保護者や地域、企業等と協働で教育課程を考える必要があることが分かった。また、地域代表者からは、児童に地域に対する愛着をもってもらいたい、地域住民に対しては、自ら役割を見つけてすることで、地域の活性化につなげたいという強い思いがあった。また、改築9年目を迎え、校庭の安全面、環境整備の面で改善する必要があるがあった。

→主体的な学びを通して、児童が輝き、地域が輝く、持続可能な協働活動の実践

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

会議を実施する前段階で各部会(児童支援部会、地域連携部会、学校評価部会)や校長、教頭、地域学校協働活動推進員、PTA代表において役員会を設け、課題の抽出や提案事項の整理を行い、会議の充実を図っている。主な熟議のテーマは、「保護者を対象とした座談会・講演会・研修会」、「プログラミング教育」、「広報活動」、「港川っ子祭り」「地域連携室の充実」等がある。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動は、「環境教育」「伝統文化・産業」を中心に、児童が地域に誇りを持ち、次世代の地域の担い手となるよう、地域人材育成の視点も持ちながら取り組んでいる。1年生「昔遊び」でお年寄りと交流、2年生「まち探検」で地域の企業訪問、3年生で蚕を育て「生糸を紡ぐ活動」4年生「海の生き物観察会・ゴミ減量作戦」、5年生「歴史再発見」、6年生「平和学習・キャリア教育」を教科横断的に計画し、主体的に課題解決できるよう工夫している。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

学校運営協議会委員でもある地域学校協働活動推進員を軸に両活動のスムーズな一体的実施が図れている。主な取組みは、児童が元気に登校できるように玄関を季節や行事に合わせて装飾する取組みや、保護者を対象とした講演会(「子どもの発達」、「子育て」等)の実施、企業との連携(企業訪問などの受入れ調整、企業プロジェクトの導入、出前授業等)、地域との連携(地域散策、講師起用、平和学習)等がある。



企業講話「手話でつながる世界」



児童玄関の装飾

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

- 活動を通して保護者や地域から一体的実施についての理解や関心が得られたことで、ボランティア希望者が増え、地域と学校の連携協働が促進された。
- アンケートにおいて「めあてをもって最後までがんばっています」の児童回答が平均3点未満(本校の課題)から平均3.4(4点満点)へ改善したり、「児童は、家庭や地域で進んであいさつします」の保護者回答がR5年度平均2.8(4点満点)からR6年度平均3.2へ改善したりと、児童の主体性が育まれている。
- ☆今後の展望として、次年度の計画(調整授業時数制度のサキドリ研究校への申込みやチーム担任制の導入)について、今年度から学校運営協議会で熟議し、学校教育の充実や働き方改革の推進をさらに図っていきたい。

名護市立 小中一貫教育校 緑風学園

基本情報

緑風学園学校運営協議会

平成30年4月1日設置

委員構成

地域住民、保護者・PTA関係者、認定こども園園長、児童委員、区長会代表 など 14名

会議回数 年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名(0名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

緑風学園学校運営協議会

背景・取組概要

名護市久志地区二見以北の小・中学校統合により誕生した学校として、「ふるさとを愛し たくましく 生きぬく 緑風の子の育成」を学校運営協議会の基本理念に掲げ、「緑風ファミリーネット(PTCSA)」の各部会(学習支援部会・地域連携部会・調査研究部会)と連携した地域学校協働活動を推進して学校運営を支援している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

地域の過疎化・環境保全活動・伝統行事の継承などの地域課題の解決、地域づくりの一環として学校運営に関わっている。年に1回、生徒会役員が学校運営協議会へ参加して意見交換をする場をランチミーティングとして開催し、交流を深める工夫をしている。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動の活動母体である「緑風ファミリーネット」の各部会(学習支援部会、地域連携部会、調査研究部会)と綿密に連携をし、小中一貫9年間の学びを意識した日常的な協働活動に取り組んでいる。特に、学習支援部会主体のふるさと学習、読み聞かせ、地域連携部会主体の清掃活動の緑風グリーンDayや地域行事への参加参画、地域ボランティア活動の支援を積極的に行っている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域資源に精通した地域学校協働活動推進員が総合学習の授業づくりに参画し、学びのねらいについて、教職員とともに「地域連携協働授業シート」を作成して授業づくりを支援している(シートは協力者との打ち合わせや授業後の振り返り等に活用している)。推進員が学校と地域との橋渡しを担うことで、教員の異動に依らない安定した学びの提供、教職員の負担軽減を図っている。併せて推進員の引継ぎを想定した協議・手順づくりも進め、お互いの主体性を高めている。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

- 地域と連携した取組が増えることで、児童生徒を地域が見守り・育むという主体的な意識が高まり、「地域とともにある学校」を関係者の多くが意識して活動している。
- 名護市CS意識調査アンケートを分析すると、児童生徒の学校・地域への愛着や地域貢献意識に高い評価がみられた。

- ☆保護者や地域の方々がコミュニティ・スクールの取組について理解を深める機会の更なる創出。
- ☆地域学校協働活動の持続可能な体制づくり。

豊見城市立 豊見城小学校

基本情報

豊見城小学校運営協議会

令和6年6月25日 設置

委員構成

PTA関係、校区自治会長、自治会代表者、大学教授、元校長、社会教育主事、学校職員 15名

会議回数

年間平均5回

地域学校協働活動推進員等数

()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(0名)

地域コーディネーター0名(0名)

※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

豊見城市地域学校協働本部

背景・取組概要

令和6年度に学校創立50周年を迎え、学校は地域社会の重要な拠点であり、地域住民にとって交流や学びの中心となる多様な役割を担っていることを再認識した。地域との関わりを通して、学校と地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちを育む「地域とともにある学校」の実現を目指したい。

⇒地域と学校との絆づくりによるジブンナー豊見小っ子の育成



工夫・ポイント・特徴的な取組

◆コミュニティ・スクール委員の選出

学校を中心とした各自治会の連携強化を意識し、各自治会長または自治会の代表者を選出し、学校区内の全自治体が学校運営に関われるようにした。また、社会教育関係者などの有識者を選出することで、地方創生も目指す。地域コミュニティの活性化を図り、地域全体で子どもたちを育む基盤づくりとする。

◆学校テーマについて

テーマ「地域と学校との絆づくりによるジブンナー豊見小っ子の育成」では、元気なまちづくりは子どもたちの健全育成に不可欠だとした。子どもたちが安心安全な環境の中で育ち、地域に誇りと愛着をもつことが地域活性化の原動力となる。地域活性化は「特色ある学校づくり」へと大きく寄与している。

◆地域も巻き込んだ取組

「みんなでラジオ体操」では、学校課題である「長期休み明けの登校しぶり」を改善、スムーズに1学期後半を開始できた。また、9月1日には「豊見城小学校区自主防災会」を設立、地域防災についての関心を高めている。また、学校区安全点検を実施し、自分の住んでいる場所の安全点検も行った。また、12月には、保護者引き渡し訓練を予定し、地域住民も参加型の防災デーを実施予定。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

- CS委員から、多様な視点で活発な意見があげられ、当事者意識の高まりが感じられた。
- CS会議で決定したことをもとに、学校応援隊が細かな計画立案をし、実施する流れができていく。CSは頭脳・学校応援隊は実働部とし、役割分担を行うことでスムーズに企画・運営ができ、学校課題の改善に繋がっている。
- 12月の保護者引き渡し訓練や防災デーの取組など、学校・保護者・地域が連携することで、大規模な取組に着手でき、地域住民への学びの場として提供することができる。
- ☆CS会議の事前調整や各自治会長との細かな調整に時間がかかる。しかし、自治会との事前の打ち合わせは必要不可欠であるため、調整役の負担は大きい。

うるま市立 赤道小学校

基本情報

赤道小学校運営協議会

平成31年4月1日 設置

委員構成

元大学教授、こども園園長、地域自治会長、児童民生委員、PTA会長、地域コーディネーター
など 8名

会議回数 年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

赤道小学校地域学校協働活動本部

背景・取組概要

- ・平成31年4月、学校・保護者・地域が連携し、相互に知恵を出し合い協働し「わったーわらびんちゃー」を合言葉に社会総掛かりで、こどもの学び・育ちを支える地域づくりを目指すため設置し現在にいたる。
- ・取組概要として、地域を大切にし、地域のために行動できるこどもを学校・家庭・地域で育てる。
- ・働き方改革の推進

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・赤道小学校SDGsカリキュラム「SDGsでつなげる学びのバトン構想」の実践。
- ・働き方改革の推進:学期末評価の取組(よい子のあゆみ→個票)
- ・「地域に開かれた教育課程」の実現を目指した学校支援ネットワークの構築。
- ・不登校等の学校課題解決に向けた取組の強化を図っていく。

【具体案】

- ・信頼のネットワーク基盤づくりとして公式noteで情報発信を積極的に行う。
- ・地域との情報共有のスキームを構築(現状と課題の共有、課題解決に向けた取組)

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員と中心に地域ボランティアと連携し、朝の交通安全活動や読み聞かせ活動、手話クラブ活動、学習支援(マル付け・ミシン洋裁補助)を行っている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員となり協議を行うことで、地域学校協働活動の現状や課題点等を共有することができている。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

OSDGsの目標達成に向け具体的な実践に取り組んだことで、こどもの学力向上や働きがいを実感できる職場づくりにおいて一定の成果を残すことができた。また、学期末評価の取組について、学校運営協議会の了承とPTAへの説明を経て学習評価の見直しを図った。

- ☆ ・こどもたちの実践力を育むための持続可能な実践をどう創っていくか。
- ・成果を学校課題(学力・不登校)の解決にどうつなげていくか。
- ・働き方改革を教育活動の質の向上につなげていく必要がある。

宮古島市立 池間中学校

基本情報

池間小中学校運営協議会

令和6年4月1日 設置

委員構成

自治会長、小中学校長、漁業協同組合長、老人クラブ関係者、PTA関係者、地域住民代表

など 9名

会議回数 年間平均2回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

宮古島市地域学校協働本部

背景・取組概要

保護者や地域の皆さんが学校の教育活動に参画し、子どものより良い育ちを通して地域の活性化、特色ある学校、地域創りを目指します。

本市のめざすコミュニティ・スクールでは、各中学校区に「学校運営協議会」を設置し、小中連携を推進するとともに学校と地域で目指す子ども像(資質能力)を共有し、学校運営に必要な支援について、熟議を深め、連携・協働のもと推進します。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

自治会長、小中学校長、漁業協同組合長、老人クラブ関係者、PTA関係者、地域住民代表といった幅広い委員構成で協議を行っている。

幅広い委員構成にすることで、学校運営協議会を通して地域の様々な機関や団体等のネットワーク化を図り、学校を核とした協働の取組を通じて地域の将来を担う人材の育成、地域が一体となって子どもたちを育て、地域とともにある学校づくりを目指す。

◆学校行事・地域行事

- ・海の体験学習の際は漁師への依頼、船の手配を行ったり、味噌づくりの際は準備や指導を担うなど、運営協議会のメンバーが学校行事の運営に参加している。
- ・地域行事の際、運営協議会がコーディネートを行うなど、子どもたちが池間島の行事や文化について理解を深めることができるような教育活動を実施している。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

○学校行事の運営に学校運営協議会が加わることで、これまで学校が担ってきた地域との調整がスムーズになり、また、行事の内容も充実することができた。

○学校運営協議会が充実することで、学校と地域との協力体制が強まり、地域が学校の教育活動に協力的になるなどの効果がある。また、地域コーディネーターがいつでも学校の相談に乗ってくれている。

☆行事等の事前調整の際、地域の担当者との時間の確保が難しい。

☆協力してくれる地域の方々は、仕事を休んで参加していただいているので、その方への謝礼金や施設使用料等の予算面の確保が必要である。

南城市立 知念小学校・知念中学校

基本情報

知念小中学校運営協議会

令和6年4月1日 設置

委員構成

社会福祉協議会評議員・海野区公民館役員・アマミキヨ浪漫の会会長・保護者・PTA小中会長・役員・事務・読み聞かせグループ代表

会議回数 年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

南城市地域学校協働本部

背景・取組概要 など 9名

令和4年度に知念地域が市の一部過疎として指定されており、現在市内全域から児童生徒が通うことが認められる「小規模特認校制度」を制定し、特認校指定に向けた「特色ある教育活動」や、小中一貫教育における「教育目標」「目指す生徒像」「具体的な取り組み」の方向性を見いだしているところです。

→「地域とつながり 地域を愛し 新しい価値観を生み出す児童・生徒」の育成を目指す

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆未来をつなぐ地域ガイド×ハッピープロジェクト

中学2年生の総合学習では、地元の宝である「斎場御嶽」への理解を深め、その新たな魅力を発信する活動に取り組んでいます。

生徒たちは3つのグループに分かれ、地域の店舗と協力してアイスクリームや石けんの商品開発を行っているほか、染色実験や廃材を使った看板作り、ポスターや紹介動画の制作など、アイデアあふれる活動を展開しています。また、久手堅区長にお話を伺い、地域の課題解決や活性化についても真剣に考えています。この活動は「なんサポ」の助成金を活用し、専門講師からのアドバイスを受けながら進めています。

特にガイド体験については、「アマミキヨ浪漫の会」の屋我様のご協力のもと、プロの視点で指導を受けています。学習の集大成として、実際に生徒たちが斎場御嶽でガイドを行う予定ですので、ぜひご期待ください。

◆知念未来塾の開塾

過疎地域である知念地域の教育強化の為に公設民営塾を開塾しました。知念小学校の空き教一昨年から運営協議会内で過疎債を利用した塾の開設の声が上がっており、今年度運用を開始する運びとなりました。

空き室を利用しており、小4～中3までが対象となります。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

○総合文化発表は1月25日予定

地域に出向いているので地域の人との関わりが生まれている。

☆総合学習について今年は何んサポが計画しているが次年度から同じ内容でできるかが不明。

斎場御嶽ガイドに関しては次年度もアマミキヨ浪漫の会が関わる予定

☆親が送迎できないと塾に来られない、帰りの方法が限られる。

本部町立 上本部学園

基本情報

上本部学園学校運営協議会

令和7年2月19日 設置

委員構成

地域有識者、区長、PTA関係者

など 11名

会議回数 年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名(0名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

本部町地域学校協働本部

背景・取組概要

- 取組1:確かな学力をつける (1)授業改善と補修指導の充実(2)自学学習力の育成(3)ICT危機の効果的な活用(4)実践的な英語教育の充実(5)読書に親しむ態度の育成
- 取組2:豊かな人間性を育む (1)ふるさと学習の充実(2)道徳教育の充実(3)あいさつから始まる自分づくり・絆づくりの推進(4)小中一貫した生徒指導(5)食育と健康教育の充実
- 取組3:自立心を育む (1)自主的・実践的な生徒会活動(2)異年齢交流の充実(3)キャリア教育の充実(4)基本的生活習慣の確立(5)情報モラルの育成

工夫・ポイント・特徴的な取組

現時点で設立間もない状況であり、今後、学校と地域との関わりあいを深めていく段階です。

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

現時点で設立間もない状況であり、今後の活動の中で出てくるものと考えています。

恩納村立 仲泊小学校

基本情報

仲泊小学校運営協議会

平成26年4月1日 設置

委員構成

地域自治会長、PTA会長、読み聞かせボランティア代表、学童代表、村社会福祉協議会など計13名

会議回数 年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

恩納村地域学校協働本部

背景・取組概要

地域に拠って立ち、志を高く持って他者と協働しながら未来を拓く子供を育てるため、児童生徒が自主的・協働的・創造的に学ぶ体制づくりを目指している。

その一環として、地域の人材を活用し子供が多様な大人と関わる機会を増やすことで、地域の自然・歴史・文化に関心を持たせ、自分で課題を発見し、深く考え、主体的に行動できるように取り組んでいる。

工夫・ポイント・特徴的な取組

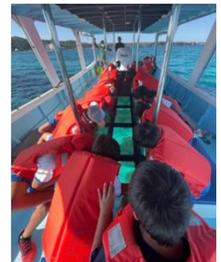
◆学校運営協議会

学校と家庭・地域が目標とビジョンを共有し、子供の成長を支えるために、年に3回程度、協議を行っている。学校運営協議会では、学校経営方針・学校評価の報告や意見聴取、放課後の居場所づくり・児童の登下校時の安全確保などの課題について協議を行っている。



◆地域学校協働活動

環境学習の一環として、村漁業協同組合が行っているサンゴ保全活動を知るために、村地域コーディネーターがコーディネートし、サンゴの苗づくりや学校沖にあるサンゴ養殖地でグラスボートでの観察学習を行った。当該学習後、村赤土流出防止協議会の職員から陸域の赤土流出防止に係る取り組みについて講話してもらい、赤土流出防止が海の豊かさの象徴であるサンゴを守ることにつながり、それが地域住民の暮らしを守るということを体系的に学ぶことができた。



また村社会福祉協議会と連携し、保護者・ボランティアと協働した朝食支援「はまゆうキッチン」を実施している。



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

○地域コーディネーターや村社会福祉協議会と協働し、多様なチャンネルでボランティアの活用が図れている。

○児童からの学校評価用アンケートで、「地域行事や地域に関する学習に積極的に取り組んでいる」の項目について、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」回答した生徒の割合が80%を超えており、地域への理解・愛着が深まっている。

☆教員の働き方改革の面からも、専門性を持った学校支援ボランティアについて活用を検討する必要がある。

北谷町立 北谷第二小学校

基本情報

北谷第二小学校運営協議会

令和4年4月26日 設置

委員構成

学校区自治会長、PTA会長、PTA事務、主任児童委員、学力向上推進、地域学校協働推進員、校長

など 10名

会議回数

年間平均4回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)

※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

北谷第二小学校地域学校協働本部

背景・取組概要

- ◆学校・家庭・地域が連携・協働し、地域全体で将来を担う子供たちの成長を支えていく「地域とともにある学校」を推進し、地域の人々が、「私たちの学校」という当事者意識を持って学校運営に参画する体制の構築及び各中学校区における小中連携教育の導入を見据えた学校・家庭・地域の協働体制の基盤づくりを目的に設置した。
- ◆学校運営協議会の場において、学校や地域課題に対応するための協議を行っている。また、地域住民等と連携した朝の交通安全ボランティア活動や、地域学校協働活動事業による放課後子ども教室を開催している。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会の開催

学校運営協議会を年に4回開催し、校長の学校経営方針や学校の教育活動について確認するとともに、学校評価や諸調査の結果から学校や地域課題に対する対応を協議している。

◆中学校区拡大運営協議会の開催

北谷中学校ブロック3校で、各学校のよさや課題等を共有し、中学校区の実態に応じた共通実践に取り組むことで、小中連携や地域連携を図るとともに、児童生徒の健全育成に取り組んでいる。

令和5年度から3校合同で挨拶運動に取り組んでいる。横断幕やポスターを作成し、地域自治会や各家庭に配布し、学校・地域・家庭が一体となった挨拶運動の推進に取り組んでいる。

◆地域学校協働活動(令和7年度)

- ・福祉についての授業(4年生)・お箸体験授業(4年生)
- ・地域学習(2、3年)・運動会のエイサー(5、6年)
- ・キャリア教育「グッジョブ!夢スクール」(6年生)
- ・人権・多様性を学ぶ「パステルアート」体験(6年生)・平和学習(全学年)
- ・老人会や地域の方の朝の登校の見守り
- ・地域未来塾(学習支援教室・プログラミング教室)



3年生自治会巡り



中学校区3校共通の横断幕



放課後地域未来塾

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

- 中学校校区で挨拶運動の周知ビラを作成し、各家庭や公民館、児童館などに掲示した。また、毎朝のあいさつ運動で横断幕を活用することで挨拶運動の推進が図れた。
- 学校運営協議会でのご助言頂いた内容を学校の教育活動の円滑な運営に生かすことができた。
- 自治会訪問では、自治会から地域の様子や取り組みを教えてもらい、地域行事への参加等の地域への関心が高まる様子が見られた。
- 地域未来塾では、児童が充実した放課後を過ごすことが出来た。
- ☆地域の担い手不足による人材確保に不安がある。
- ☆学校運営協議会のみでは、対応しきれない課題(地域の安全・不登校支援等)に対して、今後、様々な関係機関・団体との情報共有や連携が必要である。

北中城村立 北中城中学校

基本情報

北中城中学校運営協議会

令和4年9月16日 設置

委員構成

地域コーディネーター、PTA関係者、自治会長、青年連合会、商工会、子ども会、スポーツ推進委員、学校関係

など 10名

会議回数 年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(0名)

地域コーディネーター 2名(1名)

※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

北中城村地域学校協働活動推進本部

背景・取組概要

育てたい子供像や目指す学校像等に関する学校運営のビジョンを共有・熟議することにより、お互いが当事者意識を持ち、住民等が当事者として学校運営に参画することで、学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、「地域とともにある学校づくり」や「課題解決に向けた取組」を効果的に進める必要があった。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆地域学校協働活動

教育スローガンである「わったー学校・わったーわらばーたー」の地域一丸となって子どもたちの教育に関わる目標のもと、役場職員や地域、企業の方などが面接官となり、本番さながらの緊張感の中、面接に臨む態度や言葉遣い、表現力を鍛えることができた。



◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

地域学校協働本部のメンバーが学校運営協議会委員に任命されており、それぞれの視点から課題等を共有し、解決に向けて連携を図りながら様々な活動に取り組んでいる。



特別支援教室の生徒との活動(教材園の整備)

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

○地域ボランティアによる読み聞かせ活動や、個別学習支援を実施し、生徒が充実した学校生活を送ることができた。

☆地域コーディネーターなどの地域の人々と学校との連携は取れているが、子どもたちがどのようにすれば地域との関わりを深めることができるかが課題(地域行事や子ども会への参加など)

西原町立 西原南小学校

基本情報

西原南小学校運営協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

PTA会長、民生委員、学童保育代表、
地域代表、地域学校協働活動推進員(注)、
校長、教頭、教職員など 12名

注:町では社会教育法に基づく推進員を「地域コーディネーター」と称して委嘱している。

会議回数 年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員1名(1名)

地域コーディネーター 0名(0名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

西原町地域学校協働本部

背景・取組概要

- ◆「子ども達は学校で学び、地域で育つ」と言われる。学校で学んだことが家庭や地域で活かされその力がまた学校で活かされる。まさに双方向のかかわりの中で「確かな学力」は育まれていく。そこで、教育活動に地域の人財(材)を積極的に登用し、学校が活用する存在ではなく、学校が連携する存在として地域との連携を深めていく。

工夫・ポイント・特徴的な取組

- ◆地域・保護者ボランティアによる交通安全指導
- ◆朝の読み聞かせ
- ◆朝のドリル丸付け
- ◆環境整備(花壇の手入れ、校庭の草刈りなど)
- ◆地域の歴史ガイドによる戦跡巡り
- ◆学校行事支援(春の遠足の立哨など)
- ◆生活科の授業における講話(身近な生き物について、仕事調べなど)
- ◆総合的な学習での環境学習
- ◆町役場職員による講話(町長講話、議会場見学など)
- ◆クラブ活動の支援(料理、うちなーぐちなど)
- ◆卒業生による講話



生活科仕事調べ
(2年生)



パトラン西原さんと
一緒にゴミ拾い活動
(5年生)

- ◆学校運営協議会で話し合われた内容から学校課題を明確にし、地域コーディネーターを通して活動の具現化を図っている。児童の基礎学力の向上に関しては、朝の丸付けボランティアを依頼している。ボランティアと学校側で年2回意見交換会も実施しており、成果や課題等について話し合い、児童の学力向上に生かせるようにしている。
- ◆各教科の授業内容に即した地域人材を地域コーディネーターが紹介してくれており、6年社会では町長講話や議会場見学、低学年生活科では身近な生き物についての講話や仕事調べなど体験的な学習の充実につなげている。

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

- 交通安全指導や学校行事支援など地域の方が積極的に参加してくれることにより、児童の安全確保ができています。
- 地域・保護者ボランティア活動が定着し、学校との協力体制が確立している。
- 児童に身につけさせたい力(聞く力や基礎基本など)を定着させることができています。
- 卒業生講話が、子ども達のキャリア形成につながっている。
- ☆ボランティアの固定化・高齢化が顕著であるため、現役子育て世代など新たな人材の発掘が必要。
- ☆予算の確保

基本情報

与那原東幼稚園、与那原東小学校、与那原小学校、与那原中学校

令和7年4月1日 設置

委員構成

PTA会長、区長、元学校評議員、
民生委員協議会、学校側関係者
地域コーディネーター、社会教育委員
元教育委員、社会福祉協議会、商工会関係者
など 31名

会議回数 年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員2名(1名)

地域コーディネーター 2名(1名)
※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

与那原町地域学校協働本部

背景・取組概要

学校と地域が連携・協働して与那原町全体で、未来を担う子ども達の成長を支えるネットワークを形成し、地域の力を活かした学校運営を図ることにより、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材育成のために当事者意識を持って子どもの成長を支えていく地域・社会総がかりによる「地域とともにある学校づくり」を目的とする。

工夫・ポイント・特徴的な取組

今後の「与那原町コミュニティ・スクール」について



- 【令和7年度】 町内全小中学校へ導入。初年度は、各校のCS協議会の基盤づくり。CS委員とのコミュニケーションの構築。
- 【令和8年度】 CS協議会運営を学校主導から、学校と地域対等な運営へ。「熟議」「協働」「マネジメント」の確立
- 【令和9年度】 目標やビジョンを共有し、学校と地域一体となった教育活動の展開し、持続可能な組織の構築。

①	学校名	学校
貴校のR7-CSテーマ	学校・保護者・地域と連携した子どもの居場所づくり ～ 学校と地域でつくる安心・安全な学校をめざして ～	学校
※どのような学校づくりを目指すのか	学校と地域が協力して、より良い教育環境を整備し、子どもたちの成長をサポートする。	
テーマ設定理由	すべての児童及び保護者が「行きたい(行かせたい)学校」「安心・安全な地域・学校」をめざして、学校・保護者・地域とのつながりを大切にした学校運営を推進する。	
②	学校名	学校
貴校のR7-CSテーマ	例:「不登校の対応」、「体力向上」、「働き方改革の取り組み」「防災教育」「国際交流(英語力向上)」「地域連携」、「学力向上」etc...	学校
※どのような学校づくりを目指すのか	集まった学校運営協議員で、どんな子どもを育てたいか、どんな人材を育成したいか、話し合っで目標(テーマ)を決めたい。	
テーマ設定理由	地域の有志の方に学校運営協議員になっていただいているので、地域の良さを課題を踏まえ、将来の与那原町を考えた児童の育成について考えて欲しいから。	

③	学校名	与那原中学校
貴校のR7-CSテーマ	例:「不登校の対応」、「体力向上」、「働き方改革の取り組み」「防災教育」「国際交流(英語力向上)」「地域連携」、「学力向上」etc...	与那原中学校
※どのような学校づくりを目指すのか	～生徒・教職員一人ひとりの「幸せ」を目指して～ 「確かな学力」「社会性の育成」「教師の働き方改革」「地域連携」	
テーマ設定理由	多様な価値観と大きく変化する社会を、自分らしく、幸せに、たくましく生き抜く力を育てるために必要な「学力」「社会性」「教師の働き方」「地域」を軸にCSで教養を行い、学校及び地域を活性化させるために本テーマを設定。	

- ①与那原小学校のテーマ
- ②与那原東小学校のテーマ
- ③与那原中学校のテーマ
(第1回CS合同会議の様子)



成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

令和7年度設置。今後、各学校から成果・課題があがります。

南大東村立 南大東小中学校

基本情報

南大東小中学校学校運営協議会

令和7年6月25日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員、保護者・PTA関係者、学校長・教職員、地域住民代表、村体育協会の会長、女性会会長、学校評議員、教育委員会職員

など 10名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数

()は、うち学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員4名(1名)

地域コーディネーター 1名(1名)

※推進員として委嘱されていない者

地域学校協働本部名

南大東小中学校地域学校協働本部

背景・取組概要

◆地域や世界と関わりながら、より良い未来を切り拓いていく子供を育てるために、子供主体の学校づくりを目指した。そのために、子供が多様な大人とやりとりする機会を増やすことで、子供が自分で課題を発見し、深く考え、主体的に行動できるようにする必要があった。

→ 20年後の村を担う人材育成をイメージし、村民が主体的に協働参画できる学校づくり・地域づくりを目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・構成員の主体的性を高めるため、定期的(年数回)なワーキング部会を実施する。
学習支援部会、地域交流部会・・・各4名割り振り
- ・地域の方々とPTA、児童生徒が気軽に交流できる場所づくりを進める。
学校内の施設を活用したコミュニティールームの開設
- ・地域への周知と理解深化を図るため「csマイスター学習会」を実施。
12月予定

(第1回学校運営協議会) ↓



◆地域学校協働活動

- ・これまでの地域学校協働活動で中心となっていたPTA活動(読み聞かせ、交通安全見守り等)に加えて、放課後の体験活動や授業の学習支援等、コーディネーター、地域学校協働活動推進員参画によって、活動内容が、学校ニーズに近づきつつある。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・地域学校協働本部の複数のメンバーが学校運営協議会委員となり、協議内容を本部に伝え具現化を図るとともに、本部での進行状況や課題を協議会で協議している。また、年に3回行っている学校運営協議会委員と教員の熟議の場に、地域学校協働本部のメンバーも参加している。

成果・効果・課題

○成果・効果 ☆課題 で分けて記入してください

○学校の現状や課題について理解を深め今後の目標を共有することができた。

*コミュニティールームの活用を20年後の人材育成へ

☆今年度得られた成果を次年度以降の活動につなげるための計画見直し、人材発掘、円滑な連携に向けた組織体制構築。

*具体的な指標定義とアンケート等未実施のため文言のみ